

令和元年6月1日現在

機関番号：32519

研究種目：基盤研究(C) (一般)

研究期間：2015～2018

課題番号：15K02840

研究課題名(和文) 古代日本と渤海中期王権の交流と流域遺産に関する歴史環境学的研究

研究課題名(英文) Studies on interactions and landscape heritage between ancient Japan and middle dynasty of Bo-hai

研究代表者

藤井 一二 (FUJII, KAZUTSUGU)

城西国際大学・国際人文学部・客員教授

研究者番号：00139742

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 3,400,000円

研究成果の概要(和文)：8世紀中葉～9世紀前葉における日本と渤海中期王権の交流と流域遺産の実態を究明した。データベース「渤海・日本交渉関係参考文献」を報告書『東アジアの交流と文化遺産』とホームページに掲載し、論文「古代日本と渤海王権の交流に関する歴史環境学的研究」等は、報告書『渤海王国と古代日本』に発表した。その要点は、渤海と日本を結ぶ交通路は、1、各王城から「龍原府(東京城)東南」の沿海部に通じる内陸路と、2、海路によって日本の沿岸に到着する「日本道」で形成されていること、3、時代の推移と共に着岸地は北陸地域に加えて山陰地域へ範囲が広がった事実である。

研究成果の学術的意義や社会的意義

渤海王城の最新データである中京城址『西古城』(2007年)、上京城址『渤海上京城』(2009年)、東京城址『八連城』(2014年)を活用して、王城の構造と立地環境を報告書とホームページを通じて解説した。特に、渤海王城の立地と渤海使・遣渤海使の相関性を重視し、中京顕徳府、第1次上京龍泉府、東京龍原府、第2次上京龍泉府の各段階を中心とする(渤海)王啓・(天皇)璽書の特性、使節団入京・滞在・帰国状況、方物・土産等の具体相が明らかとなった。

研究成果の概要(英文)：We investigated the heritage of interactions between Bo Hai(渤海) and Japan (日本) at the middle of 8th century to the middle of 9th century. We listed a data base "References related to negotiations between Bo Hai and Japan" in the report I entitled "Interactions and cultural heritage in East Asia" and a webpage, and published our paper entitled "Study on historical environment surrounding interactions between ancient Japan and Bo Hai" on the report II "Bo Hai kingdom and ancient Japan". The points are the case that the route connecting Bo Hai (渤海) and Japan composed of (1)a land route connecting castle to the coastal region of "Longyuangfu(龍原府) Southeast(東南)" and (2) a seaway termed as "Japan way", which connects to Japan coastal region. And (3)we also found that arrival points expanded from Hokuriku (北陸)region to Sanin(山陰) region as time coursed.

研究分野：日本古代史、文化交流史

キーワード：渤海国 渤海使 遣渤海使 上京龍泉府 中京龍泉府 東京龍原府 渤海路 日本道

## 様式 C-19、F-19-1、Z-19、CK-19（共通）

### 1. 研究開始当初の背景

- (1) 中国東北部の渤海遺産に関する最新調査の情報公開は、半世紀の空白を越えて近年、牡丹江流域では上京龍泉府址の『渤海上京城』（2009年）、貞慶公主墓の全容を示す『六頂山渤海墓葬』（2013年）、また図們江流域では中京顯徳府址の『西古城』（2007年）、東京龍原府址の『八連城』（2014年）等が相次ぎ公刊され、研究環境が整ってきた。
- (2) 研究代表者は、2015年来、大連・牡丹江・ハルビン・延吉市の大学における客員教授（大連大学・遼寧師範大学・黒河学院）として活動する中で、中国研究者の協力を得て日本・渤海交流期における流域遺産のデータ集積と共同研究への展望が開けてきた。

### 2. 研究の目的

- (1) 「もう一つの遣唐使」として「北の回廊」で結ばれた日本・渤海国の交流特性と往来路の地域拠点に分布する「流域遺産」のデータを集積し歴史的環境を検討する。
- (2) 渤海王城が建国地から中京城（顯徳府）に遷る8世紀中葉以降、上京城（龍泉府）・東京城（龍原府）を経て再び上京城に戻る9世紀中頃に至るまで、王城段階ごとの交流特性を把握し流域文化遺産に関するデータを集成する。
- (3) 研究協力者（中国）との共同活動（公開講座、調査・研究会等）を推進し、その成果を冊子・ニューズレター・ホームページに拠って公開する。

### 3. 研究の方法

- (1) 8世紀中葉～9世紀中葉における日本の聖武・孝謙～桓武・嵯峨・淳和朝と渤海中期の大欽茂・大元義・大嵩麟・大言義・大仁秀ら王権との交流実態について、王城段階ごとに日本・中国双方の文献記事と考古学成果を通じて検討する。
- (2) 牡丹江・図們江などの流域遺産と各渤海王城に関する遺産データ・景観画像を収集・整理し、王城・王権の推移と日本の各王朝との交渉実態を究明する。さらに王城・古墓などの画像データは報告書とホームページに発表する。
- (3) 黒龍江省博物館や発掘報告書等に拠って、中国東北の図們江・牡丹江・黒龍江流域における唐代・渤海国関係の最新出土資料を収集するとともに、王禹浪教授（研究協力者）の協力を得て編集する「渤海・日本交渉関係参考文献」「黒龍江流域渤海古城地理分布目録」（王教授作成）を報告冊子とホームページに掲載する。

### 4. 研究成果

- (1) 8世紀中葉の中京王城（西古城）は図們江流域にあって、日本海に接する図們江口やその周縁に行政的末端機関が配備され、渤海・日本間の交流を支える人的環境が存在した。渤海使の日本滞在は到着地での待機、移動、宮中行事への参列、船舶の修理、帰国準備・待機などを考慮すると、7～9か月の滞在期間を必要とした。
- (2) 755年頃～785年頃（第3代大欽茂の時代）を王城とする第1次上京城（龍泉府）は、牡丹江流域・鏡泊湖（忽汗河）周辺という内陸部に位置し、日本との間に渤海使、遣渤海使ともに8回、758年の渤海使：楊承慶、遣渤海使：小野田守の往来に始まった。両国間の往来は渤海国が中継的な機能を担い、日本・唐間における留学生・学問僧らの物資・情報の伝達を補完する役割を果たした。
- (3) 785年頃から約9年間、王都となる東京城（龍原府）は中京王城と同じく図們江流域（八連城）にあって日本海辺の海港に近い対外拠点の特徴をもつ。『新唐書』巻219・北狄（渤海）

伝条にみる「龍原東南瀕海日本道也」の記述に関して、渤海の各王城から「瀕海」の港津までを「目的(地)+道」、港津が「日本道」(日本へ通じる海道)の起点にあると解釈した。

- (4) 794年に上京城が再び王都となるのは第3代大欽茂が死去した後のことで、これより契丹の襲撃で滅亡する926年まで132年間存続した。この間、渤海から日本(平安京)へ21回余、日本から4回の往来は、桓武・平城・嵯峨天皇の代を中心に展開した。そこでは、①渤海使節団は、秋(7~9月)の遣使決定・諸準備・国内移動・渡海・着岸地滞留・上京に約3か月間を要している。②渤海・日本間における聘期変更(不定期→6年=799年5月→12年=824年6月)に両国間の外交姿勢が色濃く反映した。また、8世紀中葉~9世紀前葉の日本・大陸間における唐・渤海・新羅の多元的交流を通じて、渤海中期王権(中京城・第1次上京城・東京城・第2次上京城)と日本の平城京・平安京間の交通路は、各王城から「龍原府東南」の沿海部に至る内陸路と海路によって日本沿岸の各津(港)へ通じる「日本道」からなり、時代の経過とともに渤海使の着岸・出港地は北陸から山陰地域へと広がりを見せた。
- (5) 9世紀(弘仁期)になって常態化した渤海使100人規模の来着地は、出雲・但馬・長門・隱岐・伯耆・若狭へ広がり、現地においては迎賓施設と食糧供給を可能とする郡家や駅館が対処した。一団には、王書を携行する大使・副使ら代表者、操船・操行の人員のほか、公・私の交易を目的とする商人・文士(舞楽・詩賦)を構成員に含んだと推察する。
- (6) 4年間の研究活動を通じて、大連市(大連大学・大連工業大学)、黒河市(黒河学院)における招待講演(客員教授)の機会が増え科研費活動が新たな共同研究と出版構想へと結びついた。4年間の具体的成果は、報告書Ⅰ『東アジアの交流と文化遺産』、同Ⅱ『渤海王国と古代日本』、同Ⅲ『東アジアの交流と歴史文化』とホームページに公開することができ、このうち報告書を踏まえた出版を予定している。
- (7) 活動成果の公開において、①ホームページ『東アジアの交流と文化遺産』に最新の遺跡情報等を追加し、コンテンツとして①文化遺産探訪(中国東北の流域遺産・博物館)、②黒龍江流域の渤海遺産(渤海王城と歴史的環境・画像にみる黒龍江・牡丹江流域の文化的景観)、③データベース「渤海・日本交渉関係参考文献」(共編)を採録した。②公開活動として①軽井沢文化講座「東アジアの交流と文化遺産—古代日本と渤海国—」(平成30年7月、中軽井沢図書館、中間報告)、②中国黒龍江省・黒河学院(同年9月、極東研究院学術論壇)における講演「北方のシルクロードと日本古代文明」。③大連工業大学外国語学院「異文化国際学術検討会」における講演「絲綢之路与日本古代的文明交流—以唐朝時代為中心—」(同年11月)を実施し、黒河学院極東研究院による客員教授として新たな国際共同研究(中国国家基金プロジェクト)への参画に結びついた。

## 5. 主な発表論文等

[雑誌論文] (計1件)

- ①藤井一二「渤海早期王城和黒龍江流域文明—日本史書中の東北史記録—」『黒龍江流域文明論壇・論文集』査読無、2016年9月、P75-79、黒河学院極東研究院

[学会発表] (計4件)

- ①藤井一二「シルクロードと日本古代の文明交流」2018年11月29日、大連工業大学外国

語学院・異文化交流学術論壇

- ②藤井一二「絲綢之路与日本古代的文明交流」2018年9月20日、黒河学院極東研究院・学術論壇
- ③藤井一二「絲綢之路与日本古代的民族交流—以唐朝時代為中心—」2017年11月23日、大連民族大学東北少数民族研究院・学術検討会
- ④藤井一二「古代日本与黒龍江流域文明連動—日本史書中的中国東北史記録—」2016年9月16日、(中国)黒河学院・国際学術検討会

[図書] (計3件)

- ①藤井一二『渤海王国と古代日本』(報告書Ⅱ) 城西国際大学、2019年3月、150頁。
- ②藤井一二・王禹浪『東アジアの交流と歴史文化』城西国際大学、2019年3月、136頁。
- ③藤井一二『東アジアの交流と文化遺産』(報告書Ⅰ) 城西国際大学、2017年3月、114頁。

[その他]

- ①藤井一二：ニューズレター『東アジアの交流と文化遺産』N015～19
- ②藤井一二：ホームページ <http://www.ne.jp/asahi/asia/tabunka/>

## 6. 研究組織

(1) 研究分担者 無

(2) 研究協力者

研究協力者氏名：王 禹浪

ローマ字氏名：(OU, UROU)